

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300103		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム徳地あいおい苑		
所在地	山口市徳地堀1785-1		
自己評価作成日	平成25年7月25日	評価結果市町受理日	平成26年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年8月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生きる」を理念とし、入居者と職員・家族・地域の皆さまと、大いに関わり・日々共に笑い・泣き、共に分かち合えることを目指し実践している。地域の方々とも身近なお付き合いができるようになり、ご家族や昔からの馴染みある友人なども気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。  
毎日が安心して穏やかに過ごせるよう、些細な変化にも気を配り、情報共有すると共に職員同士が同じ目線で支援できるよう努めている。また医療面では、協力医をはじめ必要に応じてご家族へ相談の上適切な医療が受けられるよう配慮し、施設で安心した暮らしができることを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族に月1回、利用者の生活記録と近況を写真入りの紙面で報告しておられ、運営推進会議や家族会、面会等で来訪された時には、利用者の健康状態や生活状況を詳細に報告される他、利用者と一緒に弁当を作って観光地へのドライブやイベントに家族も参加できる機会をつくられたり、自宅への外泊や外出、外食等、出来るだけ利用者家族と一緒に過ごしてもらえるように工夫され、本人を家族と共に支えあう関係を築いておられます。家族からの情報や日ごろの関わりの中から、本人の思いや意向の把握に努められ、墓参りや懐かしい場所への外出、手芸ボランティアの協力を得て折り紙や切り絵、さげもん、ぼんぼりづくりをされたり、家事や食事、野菜作りなど、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、利用者の日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「共に生きる」を掲げ、日々の生活を入居者・職員間はもちろんのこと、別に住むご家族や地域の方々とも、喜怒哀楽を共に分かち合えることができる環境作りに努めている。	事業所独自の理念を基に毎年基本目標を立てて、理念とともに玄関に掲示している。職員は利用者の個性を尊重し、思いを大切にしているかを話し合い、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の高齢者を招待した交流会や、日常的な散歩・買い物、散髪など地域の一人としてお付き合いできる環境作りをしている。	自治会に加入し、清掃活動に職員が参加する他、集会に管理者が出席している。年1回の事業所主催の交流会に近隣の高齢者を招待し、食事やイベントなどで交流している。地域の夏まつりの提灯づくりや花火大会の見学に出かけ、地域の人と交流している。中学生や高校生の職場体験、ボランティア(コーラス、フラダンス、手芸、和太鼓、オカリナ、民生委員の草取り)の来訪があり、交流している。近所の人からの野菜や花の差し入れ、散歩時や買物時、理容院で出会う地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設イベントへ招待や、学生の職場体験やボランティアの受け入れなどを通して、苑の取り組みや認知症への理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、職員ミーティング等を通して説明し、ケア方法や具体的な取り組みなど個別カンファレンスやミーティングで協議し改善に向け取り組んでいる。	管理者は評価の意義について職員に説明し、職員ミーティングの中で項目毎に全員から意見を聞いてまとめている。個別のケア方法の共有や初期対応時の身体面の観察の仕方の訓練など、改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、施設の現状や今後の取り組みを報告している。また、出席者よりいただいたご意見は、サービス向上に向け活用している。	年5回開催している。利用者の状況報告や行事報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価結果の報告をして、意見交換している。毎回、テーマ(災害対策、感染症対策、利用者の1日の過ごし方、介護の工夫等)を決めて話し合いをしているが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、窓口や電話で相談したり助言を求めるなどしている。	市担当課と運営推進会議の他、電話や直接出向くなどして、情報交換し、変更申請や法的解釈、災害時の協力等について相談し助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議時や電話で事例について相談し、情報交換するなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室の窓など開錠・開放し、開放的な環境で過ごしていただけるようにしている。外出を察知したときは、一緒に出かけるなどの工夫をしている。また、言葉のかけ方については、職員同士注意し合いスピーチロック防止に努めている。	マニュアルがあり、ユニットミーティングや職員ミーティングでの勉強会で学び、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。玄関には施錠をしないで外出を察知した場合は一緒に出かけるなどの工夫をし、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が指導する他、職員間で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常ケアを行いながらお互いが無意識のうちに虐待行為を行っていないか、職員間で確認し合ながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度および日常生活支援事業の利用者を受け入れている。ご家族等から相談があれば適切に利用できるよう説明し、利用開始に当たっては関係者と協議し調整している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ねた上で十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け担当者、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。ご家族へは「ご意見用紙」を配布や、面会時に状況報告を行うと共に意見や要望を聞くようにしている。	苦情の受付体制や第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や年1回の家族会、面会時の他、玄関に意見箱を設置し、年1回、「ご意見用紙」を配付して苦情や意見、要望を聞く機会を設けている。家族から衣類の枚数が合っていないという意見があり、衣類管理表を作成し職員間で共有するなど、意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングに於いて、意見交換を行いより良い支援につなげられるよう努めている。また、年2回行う個別面接などにおいても意見などあれば、運営に反映できるよう努力している。	月1回の職員ミーティングやユニット毎のミーティング、年2回の個別面接で意見や提案を直接聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。職員から、感染予防のためのトイレの清掃方法や布巾の洗い方、安全面に配慮した物干しの設置などについての提案があり、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シート・面談により意見・要望など把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。また、週一回の統括会議に於いて、現状報告と改善に向けた協議を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回開催の法人内部研修への参加や随時行われる外部研修への情報提供を行い、業務の一環として参加の機会を設けている。受講後は復命を行うと共に、研修内容を職員全員で共有できるようにしている。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命し、職員間で共有している。法人研修(年6回は外部講師による研修、法人事業所の研修報告等)は、月1回実施し、全員が受講している。内部研修は月1回、計画に基づいて、身体拘束、高齢者虐待、事故、ヒヤリハット、緊急時の対応、プライバシー、倫理、法令遵守等について実施している。法人内のグループホーム部会との交流や他事業所への職場訪問研修等を実施している。新人職員は日々の業務の中で、管理者や先輩職員から介護技術を学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で行う協議会(研修会)への参加や法人内のグループホーム部会による交流会や他事業所による職場訪問(研修)などを通じた意見交換や体験実習を行うことで、質の向上に向けた取り組みを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族との面接、医師・MSW・介護支援専門員からの聞き取りを行うことで、入居者の生活歴、思いを確認し、サービス導入時に安心して暮らせる環境作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では、不安などが解消できるよう相談にのり、入居後は苑での近況報告を行うことで安心していただけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接を行い、どのような支援が必要か見極め、必要に応じて他のサービスについての情報提供・相談や利用の仕方などの説明を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・入居者共に一緒に生活する一人として、お互いが知恵と能力を出し合い、支え合って日々を過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りによる近況報告、面会時にご家族との面接で、できる限り家族と職員とが情報を共有化でき、それぞれの立場から同じ目標に向けた支援を行うことができるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族による面会拒否がない限りは、昔の同僚や近隣の方の面会を受け入れている。また、馴染みの関係が保たれるよう個別支援を含め、施設での暮らしが広がりあるものとして感じられるよう心がけている。	親戚や友人、知人、昔の職場の同僚の訪問があり、電話の取次ぎや年賀状を出す支援、馴染みのパン屋での買物、友人の三味線の発表会に出かけたり、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や商店での買い物、法事や結婚式への出席、墓参り、寺参り、盆正月の外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の意志を尊重し、自由に過ごしていただけるようにしている。入居者同士仲良く笑顔で過ごせるよう、座る場所など配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が終わりではなく、いつでも相談できる関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己判断可能な方については、本人の要望を聞き、困難な方については、日々の行動や言動、またケアへの反応など些細な気づきを基に本人の思いの把握に努め、担当者を中心にカンファレンスで検討し希望に添えるよう努めている。	入居時のアセスメント(生活歴、希望、意向、嗜好、スポーツ、趣味、特技、おしゃれなど)を活用する他、日常の言動から意向の把握に努めている。困難な場合は家族から話を聞き、職員間で話し合い、本人本意に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・ご家族からの聞き取りや関係機関からの情報提供、入居後に於いてはそれぞれ機会ある毎に聞き取った話を記録にし、支援の参考にしていく。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動や行動などを把握に努めると共に個別経過記録に記載し、申し送りやカンファレンスを通し職員同士が情報の共有化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握すると共に、カンファレンスを通して現在の状況や課題(原因や背景)を意見交換し、情報を共有すると共に同じ視点で支援できるよう、その場に即した支援計画を作成している。	計画作成担当者を中心に月1回ケアカンファレンスを開催し、本人、家族、主治医、看護師等の意見を参考に職員全員で話し合い、介護計画を作成している。事業所独自の支援シートに基づいて3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている。要望や状況に変化があった場合はモニタリングをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録、受診記録などから情報共有を図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズの把握に努めると共に、医療機関(専門医)の受診や福祉用具の利用など広い視野を持ち、専門家による意見を聞きながら支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他事業所との交流やボランティア受け入れ、学生の職場体験などを通じた交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を確認すると共に、適宜受診の支援を行っている。また、協力医療機関とは密接な関係を保っており、状態に応じ相談・受診できる体制づくりをしている。	本人や家族の希望する医療機関がかかりつけ医となっており、他科を含めて、家族の協力を得て受診の支援をしている。協力医療機関の月1回の往診や緊急時や夜間の対応がある他、週1回の訪問看護師と事業所看護師との連携による健康管理を行なうなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者に体調の変化があれば随時看護師に報告し指示を仰ぐようにしている。また、施設看護師に於いては、協力医療機関の医師又は訪問看護師と相談し適切な対応が図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族・主治医・MSWと情報交換を行いながら状況把握に努めている。退院時に医療機関などから得た情報をもとに、職員間で情報共有し退院後安心して過ごせるような環境作りを行い受け入れている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時に施設の方針を説明している。受診状況をご家族に報告すると共に、重要な段階にきたときは、本人・家族・医師・訪問看護師・職員間で協議し支援している。	契約時に事業所が出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族や医師、訪問看護師等関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	「事故」・「ヒヤリハット」についてはユニット間で対応策を協議し事故防止に取り組んでいる。緊急時の応急手当については、職員ミーティングの中で看護職員を中心に初期対応できるよう訓練を実施している。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、ユニット会議で話し合い検討して、介護計画に反映し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応やAEDの使用訓練を実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中・夜間想定で避難消火訓練を実施している。また、自治会へは訓練への参加を呼びかけている。	年2回(消防署の協力を得て1回、事業所が独自に1回)夜間想定を含めた避難訓練や避難経路の確認、夜間対応を含めた通報訓練、消火器の取り扱いなどの訓練を利用者と一緒に行っている。地域自主防災組織に加入し、地域住民に訓練への参加を呼びかけ、訓練時に自治会長の見学がある。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた意向・意志尊重・敬意を持った声かけを行うようにし、馴れ合いにならないよう努めている。不適切な対応があれば、職員同士が注意しあうようにしている。	内部研修で勉強会(倫理、法令遵守、プライバシー等)を実施し、職員は利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について理解して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者や職員間で注意し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた声のかけ方を行っている。表出が難しい方には選択肢を与え、その中から選択できるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設における大まかな生活リズムはあるが、起床から就寝まで個々の体調やその時々気分を尊重した時間を過ごして貰っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択できる方については自主的に更衣されている。できない方については気候にあった服装ができるよう、職員と一緒に選んで着てもらっている。化粧品の補充や美容院の利用などご家族と相談しながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事はもちろんのこと、日々の食事が楽しみなものになるメニューの工夫を行っている。盛りつけや配膳等を工夫すると共に、食べ易いよう食器等にも配慮している。また、好きなメニューを注文できる外食の機会を作ったり、下ごしらえやなど作る喜びが共有できるような取り組みをしている。	利用者の好みを聞き、季節感にも配慮して献立を立て、差し入れの旬の野菜を利用して三食とも事業所で調理している。利用者は、下ごしらえや台拭き、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にして、職員と会話を弾ませながら食事を楽しんでいる。おやつづくり(ホットケーキ、ゼリー、カップケーキ、クッキーなど)や季節の行事食(節分、雛祭り、餅つきなど)、そば打ち体験やラーメン流し、弁当を作って戸外での食事、誕生日に利用者の好みを取り入れた外食など、食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や排泄状態、体重の増減を確認し、必要な方については医師と栄養状態を相談しながら指示を貰っている。個別に調理方法や盛りつけ方など摂取し易いよう工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りなどで一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握し、適宜声かけや誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、プライバシーに配慮した声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に排便できるよう、水分摂取量や運動、飲食物の工夫を行うと共に、排便状況把握のため、管理簿を工夫し対応できるようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	隔日に入浴できるようにしている。入浴拒否などがあれば、時間や入浴日を変更したり、職員が交代するなどの対応をしている。また、個別に入浴剤の使用や、温度調整、入浴の順序などその方に配慮して、入浴が楽しめる環境作りを行っている。	入浴は、隔日の13時から16時までの間、利用者の希望を聞きながら無理強いせずにゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には日時の変更や職員の交代など工夫している。体調などで入浴できない場合は、清拭、足浴、シャワー浴、部分浴などを行い、一人ひとりの状態に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息や睡眠ができるようにしている。夜間良眠できるよう、日中の過ごし方などにも配慮した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック簿により服薬管理を行い、薬事情報も直ぐに確認できる場所に設置している。また服用し易いよう医師や薬剤師と相談の上、薬の形状(錠剤・散剤等)を変更するなど配慮している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力に応じたものを提案し、自己選択していただいている。声かけにも工夫し楽しめる環境作りに取り組んでいる。	書道、生け花、唱歌、ぬり絵、ちぎり絵、折り紙、貼り絵、裁縫、スタンプ画、ラジオ体操、風船バレー、計算ドリル、漢字ドリル、ボランティア(手芸、オカリナ、フラダンス、和太鼓)の来訪、季節行事(節分、雛祭り、クリスマス会、ソーメン流し、餅つき、カルタ大会、小運動会)、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、芋ほり、野菜の収穫、案山子づくり、提灯づくり、さげもんづくり、袋づくり、食器洗い、台拭き、下膳など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の日常的なさりげない言葉に耳を傾け、希望に添えるよう努力している。また、お誕生日にはその方の希望を聞きながら馴染みある場所や旧友と再会など個別支援に努めている。	散歩や日向ぼっこ、買物、喫茶店、季節の花見(梅、桜、菖蒲、藤、向日葵、コスモスなど)、蛍狩り、ドライブ(道の駅、阿弥陀寺、常盤公園、長源の里、徳山動物園、プラネタリウム等)、地域の行事(夏祭り、神社の祭り、花火大会)、吹奏楽コンサート、誕生日の夕食等の他、家族の協力を得て美容院の利用や墓参り、法事への出席、夕食等、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を自己管理されている方もおられるが、生活用品の購入やお小遣いについては家族よりお預かりし施設で管理している。一緒に出かけ商品を選んだり支払いをして貰ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りを発送を行っている。本人の希望があれば電話の取り次ぎや手紙をポストに入れるなどの支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう玄関やリビングには花や利用者が作成した作品を飾り、壁には思い出の写真を掲示している。	利用者が集うリビングは明るく、広く、利用者の外出時の写真や手作りカレンダー、季節感のある折り紙や切絵等の作品、ぼんぼりやさげもんなどの利用者の手芸作品を飾っている。テレビの前には大きなソファや椅子を配置し、一人になれる場所や仲のよい人と一緒に過ごせる場所など、配置に工夫をしている。トイレや浴室も清潔に整頓しており、室内の温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなど家具の配置を工夫し、落ち着ける場所作りを行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や生活用品は馴染みある物を持ってきて貰っている。家族の写真や手作りの手芸作品など飾り、それぞれが落ち着ける空間作りがされている。	鏡台、ダンス、衣装掛け、衣装ケース、三段棚、机、椅子、ソファ、時計、家族写真、手芸作品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所については、理解し易いよう表示の工夫をしている。居室についても本人が解りやすいものを飾るなど認識し易い物にするなどしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム徳地あいおい苑

作成日: 平成 25年 2月 24日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	応急手当や初期対応の定期的訓練の実施。	事故発生時の初期対応や応急手当が実践できるよう、看護師が中心となって研修・訓練を実施する。	1年
2	36	災害時における地域との協力体制の構築	災害等発生時の避難が必要な場合に於いて、地域の協力が得られるようにする。	地域行事への参加等で日頃から馴染みの関係づくりを継続し、運営推進会議や自治会での集まりを通し、施設の状況を知ってもらうと共に訓練への参加協力を呼びかける。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。